

会議の概要

令和4年度 第7回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

- 兼
- 大山幼稚園学校運営協議会
 - 玉井幼稚園学校運営協議会
 - 大山小学校学校運営協議会
 - 玉井小学校学校運営協議会
 - 大玉中学校学校運営協議会

日 時：令和4年12月12日（月）18:30～20:15

場 所：改善センター 全体協議：多目的ホール（1階）

グループ協議：幼稚園 多目的ホール

大山小 農事研修室（2階）

玉井小 農事相談室（〃）

大玉中 健康相談室（1階）

（進行 指導主事 渡邊 博樹）

1 開会のことば （コミュニティ・スクール委員会副会長 館下 愛理）

みなさん、こんばんは。これより令和4年度第7回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会）を始めます。よろしくお願いいたします。

2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 渡辺 敏弘）

皆さん、こんばんは。お忙しい中、また、今日はだいぶ寒い中お集まりいただきましてありがとうございます。前回の大玉中学校でオープンスクールの後に行われた会議では、中学生がグループに入って話し合いをする取り組みができ、とてもいい部会だったなと思っております。今後できるだけそういう機会をつくったり、あるいは増やしたりしていった、ゆくゆくはそういった中で子どもたちから出てきた考えを生かせるような取り組みができたら素晴らしいと考えているところで

す。

また、先日の校長会で出た話なのですが、小・中学校のオープンスクールは年に3回あるのですが、その中で1回ぐらい各学校の先生方に分かれてもらって話し合いに参加する等できると、話し合いの視点も広がり、おおたま学園の連携の強化にもつながるのではないかという意見が提案されました。すぐにできるかどうかは分かりませんが、次年度以降実現できたなら、さらにいい方向に向かっていくのではないかと考えています。

さて、本日も協議事項が多いのですが、中心となるのは次年度の各幼稚園・学校の方針について意見をいただくことです。各校・園では、年度末の会議で経営の方針についての検討が進行中です。今日は、「皆さんからご意見をいただきながら一緒に方向性をつくっていく」、そういった会議になると思いますので、ぜひ活発なご意見を出していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ (CS委員会会長 伊藤 和弥)

改めまして、お晩でございます。本日も寒い中お疲れさまです。

また、今回は中学校のオープンスクール及び学校運営協議会ということで、生徒の皆さんにも入っていただいて、本当に活発に、そして逆にこちらの方が勉強させられるような会議でした。皆さん、本当にお疲れさまでした。

本日も多くの協議事項・内容になると思いますが、いろいろ意見を出し合いながら会を進めていただきたいと思います。また、寒くなってコロナも増えておりますので、体調管理には十分お気をつけください。本日もよろしくお祈りします。



4 諸連絡

○ 本日の日程と内容について説明

- ① おおたま・オータム・フェスタアンケート集計結果報告
- ② 第4回おおたまコミュニティ広場について (全体)
- ③ 令和5年度各園・各校の幼稚園・学校運営方針についての熟議 (各校・園毎→全体)

5 協議 (座長 CS委員会副会長 矢吹 吉信)

(1) おおたま・オータム・フェスタアンケート結果報告 (指導主事 渡辺 博樹)

- ① 参加者アンケートの結果について
- ② 小・中学生のアンケート紹介 (記述<活動別>) } ~ 略 ~

(座長) アンケート結果によりますと、非常にいい意見もあれば、今後の課題やCS委員がもう少し関わった方がいい等のご意見がございました。これについて皆さんから何かありますか。質疑ということでこの時間をとっておりますが…。(皆さんも参加したと思いますが) 今後の課題もありますので、ここで終わらずに書いてくれた方のためにも来年度に生かせればと考えております。

(麻生委員) 私はミニ運動会に参加しました。役割は道具の準備と聞いて参加したのですが、あまり仕事もなくて(玉入れの玉の出し入れくらいで)、学校の運動会を見に行っているような感じでした。運動会として完成されていたと思っていたのですが、事前の打ち合わせが必要だったのかもかもしれません。CS委員にもっと仕事を割り当ててくれてもよかったですと感じました。

(田邊委員) 3年前は、事前に先生方やCS委員が参加して分担を決めたり、話し合ったりする機会がありました。私もミニ運動会担当だったのですが、コロナで(開催が)どうなるか分からないということもあって、ぎりぎりまでやるかどうかもめていたのではないかと思います。CS委員と先生方が話し合う場が1回はあればいいと思います。

(座長) 全体的に見ると、教職員だけでなく、CS委員がもっと活動できるようになるといいと思います。今年はコロナ禍ということもあったので、その辺を配慮していただいて、なるべく先生方で進めた部分もあったのかなと思います。次年度はCS委員もしっかりと入って、先生方の負担を減らす取り組みができればいいと思います。その辺を来年度に向けてやっていきましょう。

(渡辺指導主事) 9月の頭にはコロナ感染者が村内で50人位になっている日もあって、なかなか開催できる状況ではなく、ぎりぎりまで決定を待ってしまったということは否めないです。そして、先生方や地域の方々に負担をかけてしまったのも事実です。本当に申し訳ないとは思いますが、ただ「何とか今年こそは」という思いでやらせていただきました。先生方、地域の方々、CS委

員の皆様のご協力のお陰だと思っております。内容を十分に振り返り、充実させて、来年度よりよいものにしたいと思っております。ご意見ありがとうございました。

(座長) このオータム・フェスタを行うに当たって、事前の集まりをもてるよう忘れないようにしたいと思います。そして、意見を出し合っただけでよいものにしていきたくて思っておりますので、ご協力をよろしくお願ひします。

それでは(2)第4回コミュニティ広場について事務局より説明をお願いします。

(2) 第4回コミュニティ広場について

① 事務局案の提示(開催計画案による説明)

ア 第4回コミュニティ広場(第14回教育フォーラム)開催計画(案)の説明

- 日時: 令和5年2月18日(土) 9:00~11:30 於 改善センター
- 参加者を限定する。(130名程度)
 - ・ 近隣市町村の来賓、CSで育った学生等を加える。
- 第1部「大いなる田舎 大玉村への思いとこれから」小・中学生の発表
 - ・ 村内在住者に発表の様子をライブ配信する。(『広報おおたま1月号』に配信QRコードを掲載)
 - ・ 小・中学生の発表は2月18日の発表終了後から2月28日まで再度配信する。
- 第2部「大玉村の豊かな未来へのメッセージ」フリートーク
 - ・ 子どもたちの発表をもとに、大玉村の強み(魅力)や弱み(課題)を一緒に考えるとともに、強みを生かすために、弱みを克服するためにできることややってみたくて思っていることを考える機会とする。さらに、地域とつながりのある活動の充実に向けて、地域や企業、保護者が子どもたちや学校と一緒にやってみたくて思っていることや、子どもたちや学校が地域や企業、保護者と一緒にやってみたくて思っていること等について意見交流を図る。
- 役割分担 ~ 略 ~ ○ 会場図 ~ 略 ~
- その他
 - ・ 新型コロナウイルス感染症・インフルエンザの感染状況を踏まえて判断する。1月6日の校長会の際に開催の方向性を確認する。変更が必要な場合は1月12日のCS委員会で最終確認をする。

② 質疑応答

(座長) 只今事務局より説明がありましたが、何かこれに関して質問等ございますか。

期日は2月18日で日程が組まれております。新型コロナ関係についても、感染状況を踏まえてこういった段取りで開催の方向性を確認するということが記載されております。内容につきましては、発表等も昨年のようなのかなと想定しております。これだけは確認しておきたいということでも結構です。係の割り当て等についてもご質問があればお願いします。



(吉田副会長) 1月6日の校長会の際に開催の方向性を確認するとあります。最終的に開催するかどうかについてどこかで決めた方がいいと思います。各校でも収録になるのか会場での発表になる

のかがはっきりとして、切り替えられると思うのですが…。

(渡邊指導主事) オータム・フェスタの場合はぎりぎり1週間前に実施すると決めました。それでかなり批判が多かったと思います。そうなってくると、2週間前かなと考えているのですが…。それでも急であるというのであれば決定を早めますが、いかがでしょうか。

(座長) 2月18日の2週間前にオンライン(収録による動画配信)か会場で行うのかを決めるということですね。

(渡邊指導主事) ただ、基本的には実施すると思っておいていただけると助かります。中止の(当日開催できない)場合は配信にせざるを得ないので、急に変更ということではないと思います。

(座長) 行う方向ではありますが、やり方が収録の配信になるのか、この会場で行うのか難しい判断になるかと思います。コロナのピークが1月中旬頃になるのではないかという報道もありますので、その辺を考慮して慎重に判断していただいて、やり方をどのようにするかを検討していきたいと思います。

(渡邊指導主事) 判断が2週間前かもっと前の方がいいのかなのですが…。

(座長) 児童・生徒がまとめるのに準備等があるのではないかと思うのですが、校長先生方がいかがでしょうか。

(安田校長) やることを前提としているのであれば、オンライン(収録の配信)になるということについては問題はないのかなと思います。3～4週間前でなくとも、ぎりぎりに決定でも大丈夫です。

(佐藤校長) 私も同意見です。子どもたちの発表の場がこの場所になるのか配信になるのかということですね。であれば、実施するという前提でいけば、特に問題はないかなと思います。

(座長) 齋藤校長先生もよろしいでしょうか。・・・(同意)・・・

一番はコロナが収束しているかどうかということですが…。その他何かございますか。またありましたら、最後にでもご質問をお願いします。(特にない様子)

次は各校・園ごとの熟議となります。19時30分頃までに戻ってきていただいてその後全体共有になりますので、限られた時間ではございますがよろしくお願いします。

(3) 令和4年度各園・各校の幼稚園・学校運営方針について

① 各園・各校の素案についての説明及び熟議(各園・各校ごと)

- 各園・各校ごと(グループ)の進行による… 大山・玉井幼、大玉中、玉井小、大山小





② 全体共有 ※各校・園5分程度（重点事項及び変更点を中心に）

（座長） それでは、全体共有ということで、来年度の重点項目及び変更点を中心に各校・園の代表の方から説明をお願いします。

ア 大玉中学校

（大玉中学校長 安田 浩明）

現在、来年度の学校経営運営ビジョンについてはまだ形になっておりませんが、私の構想をお話ししたいと思います。

- 本校は大玉村立の学校であり、大玉村が目指す教育が『夢を育てる教育』大玉に学び、世界とつながる人間の育成』となっていますので、これに応えるべく大玉中が目指す生徒像を「豊かな感性とグローバルな見方・考え方をもち、夢に向かってひたむきに努力する生徒」としています。「豊かな感性とグローバルな見方・考え方」というのは、所謂“国際性”と捉えており、「世界とつながる人間の育成」のためには国際性豊かな生徒でなければなりません。そして、「夢を育てる教育」ということで、夢に向かってひたむきに努力する生徒を育成したいと考えております。
- 生徒の目を外に向けていきたいと思っております。基盤となるのは identity（＝自分が何者なのか認識すること）で、それがないと国際性豊かな生徒は育ちません。「自分は豊かな自然に囲まれている大玉村の子ども（人間）だ」を根底に、大玉ならではの教育を充実させていくこと、すなわち、「地域や社会とつなぎ、多様な人々との心の交流を通して豊かな人間性や社会性を育む教育」を充実させていきたいと思っております。もちろん、CS、おおたま学園構想は本村ではしっかりとシステム化されておりますので、それに支えられながら学校経営をしてまいります。

次年度は新しいことをするというのではなくて、この3年間経営してきた中で大事にしてきた“大玉プライド”、“地域貢献”を来年度も踏襲していきたいと思っております。

- 本校の課題は学力の向上かと思っております。生徒の学力向上のためには（教員の）授業力の向上につきるのかなと考えます。先生方の授業力を向上させて、それを生徒に還元していきます。その際、同僚性を生かした校内研修をしっかりと行い、現在導入されているタブレット活用、ICTの効果的活用等に取り組んでいきたいと思っております。

以上のように指導力のある先生方に囲まれた学校づくりに取り組み、所謂“虹のような学校組織”を目指していきます。こう言うと、「今年度と変わり映えしないな」と思われるかもしれませんが、1年だけでまた違うことをするのはではなくて、やはり今まで積み上げてきたものをもう少し継続し、「あとどこが足りなかったんだろう」と常に評価しながら実践するという姿勢で来年度もやっていきたいと思っております。



○ 今年度のこれまでを振り返って、子どもたちは元気に素直に成長していて、みんな優しい気持ちももっていて本当にいい子たちだなという実感があります。ただ、一方ではあまり深く考えずに言葉を発してしまったり、行動したりした子もいました。心ない一言で心を傷つけられたこともあったように思います。また、授業では、頑張って知識を身につけて高めようとする子どもたちがほとんどなのですが、中には受け身だったり、指示待ちだったりと自分から勉強する気持ちのない子も少なからずおりました。

○ 来年度、これまでと取り組むことは基本的には変わらないのですが、特に力を入れてやってみたいと思っていることは「他者と関わる力の育成」です。異学年集団での体験学習を意図的・計画的に実施して、社会性を育成したり、多様な意見にふれさせたり、切磋琢磨して互いに高め合えるような機会を教育課程の中に位置づけたりして、他者と関わる力の育成を図っていきたいと思っております。「そのために、授業では…、行事では…」ということで、この後先生方と具体的に考えていきたいと考えています。

○ 2つ目はSDG sを意識した取り組みです。SDG sが叫ばれる前にE S Dという言葉が使われていました。「持続可能な開発のための教育」というものです。正確には、「現代社会の問題を自らの問題として主体的にとらえ、将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組むことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動との変容をもたらし、持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動」のことです。つまり、E S Dは「持続可能な社会の創り手を育む教育」と言われています。

今、子どもたちは、ワールドカップ等で闘っている選手たちの姿をテレビで見たり、また、この前本校に来られた慈英士さんから“世界各国を歩いて来た体験談”をお聞きしたりして、世界にすごく興味を持ち始めています。常にそういう子どもであってほしいなと私も思うのですが、「世界に行ってそこで何をしようか？」と考える前の段階として、今の玉村に暮らす中で課題意識をもつことが、子どもたちが将来大玉に残っていたとしても、外に出て行ったとしても、外国に行ったとしても役立つ考え・価値観・姿勢につながるのではないかと思います。(目の前にあるこの環境の強みとか弱み、自分には何ができるのか、何を必要としているのか、何が課題か、みんなは何を求めているのか etc.)

現在、総合的な学習の時間にいろいろな地域教材を扱って勉強しています。指導する教員が、それを通して「持続可能な社会」をつくるために、今必要な知識・技術・コミュニケーション能力を身につけようとしているんだという意識をもって、子どもたちと接していくことでそういった意識も高まっていくのではないかと考えます。CS委員の皆さんからも次のようなご意見をいただきました。

- ・ そういった力は大切で、子どもたちが率直に意見を述べられるような場を設定することが大事である。
- ・ 持続可能な社会をつくっていくという考えをもっている子どもは少ないかもしれないが、間違いなくいると思う。そういった子どもを増やしていくには、学校だけで育てるのは難しいので、保護者の理解・協力を得られるように保護者の意識を変えていくことも大切ではないか。

来年度は、こういった取り組みを教育課程の中に計画し、保護者も一緒に学べるような機会をどこかに設けていければいいと考えています。



○ 本校の教育目標は「自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども」で、私はとても気に入っています。“自分に誇りをもち”、“ふるさとに誇りをもち”こんな素敵な教育目標はなかなかありません。ぜひ、子どもたちが成長し、これを噛みしめながら卒業できるよう学校は頑張らなくてはならないと改めて思っています。ただ、来年度の学校を考えた時に、やはり新型コロナウイルスの感染状況について先がなかなか見えないということをしかり踏まえておきたいと思っています。来年の4月頃、もうコロナは心配しなくともよくなったとなったら本当に嬉しい限りですが、(感染の)波がまた来るかもしれないとなれば、それ相応に考えて子どもたちの教育活動を保障しなくてはならないと思っています。

それで、いろいろ考えた時に「じゃあ学校現場の役割っていったい何だろうか」とつきつめていくと、やはり学校は子どもたちの学びを止めてはいけないというふうに私は考えており、安全・安心をベースにしながらも、子どもたちが1年間学校に通って、例えば臨時休業とか学級閉鎖とかがあったにせよ、6年生が中学校に進学する時に、6年生までに学ぶ学習内容を履修できないままであるということは全体に絶対にあってはならないことだと思っています。ですから、この学びの保障・履修・習得等を私たち教員は注力の第一にあげていきたいと思っています。

○ 現行の学習指導要領では主体的・対話的深い学びが重視されています。私たちは、どこかでこれを新学習指導要領という言葉で言っているのですが、もう4年目に入りますので、実際には現行の学習指導要領です。私たち学校現場の教職員は、ずっと主体的・対話的で深い学びになっているのかを振り返る必要があると思っています。本校の子どもたち、そして先生方の日々の取り組みの様子を見ていて、やはりまだ課題だなと思っているのは子どもたちの学力です。もっともっと子どもたちに力をつけさせてあげたいと考えます。

○ 子どもたちの主体性・自主性についてですが、本校の子どもたちは「先生に言われたから」、「お家の人に言われたから」という気持ちが強いと思います。子どもたちにやらされ感がある限り、自分から進んで勉強することはないと思っています。また、友だちと一緒に「ここでやろうね。」というふうにもなかなかならないのではないのでしょうか。まわりの大人や教員に「こんなふうにやってみたら?」「あんなふうにやってみたら?」と言われて一歩踏み出すような、まだまだそういう状況なのかと思っています。(他にも、自分自身の健康に気をつけることをまわりに言われて初めて取り組む等。)

やらされ感ではなく必要感、やりがい感、達成感、そんな小さな一つ一つの積み重ねを子どもたちと共に実践していければいいと思っています。

実は先生方もそうあるべきと思っています。何でもかんでも「教頭先生、これどうすればいいですか?」「校長先生、これはこんなふうでいいですか?」と訊くのではなく、「私はこう思うのですが、こういうふうにやってみたいんですけどどうでしょうね。」と言えるように先生方にもなってほしいなと思っています。ですから、主体性・自主性というのは、子どもたちだけではなくて、先生方も意識して取り組んでいきたいなと思っています。

○ そのためどうするかということなのですが、やはり学校だけではできません。その鍵を握っているのが地域素材です。来年度、本校は創立150周年を迎えます。せっかくの機会なので、昔の玉井小学校の話を地域の方から聞く機会をどんどんつくって、できれば総合的な学習の時間の中で行いたいと思っています。家に帰っておじいちゃん、おばあちゃんの話聞く等そういう機会を取り入れ、地域の方や高齢者と子どもたちの関わりを今以上にもって、それを学習に生かしていく、そんな形ができるといいなと考えています。ですから、本校ならではの教育活動をぜひ来年度は組み込んでいきたいと思っています。教育計画はそれぞれの学校にあるのですが、校名を隠すとどこの学校の計画か分からないというものも結構あります。名前を隠しても中身を見れば「これは玉井小学校だ!」と分



かるようなそんなカリキュラムを来年度はぜひ作って、子どもたちの主体性・自主性を育みながら、そして学力も上げていきたいと考えております。

エ 大山幼稚園

(大山幼稚園副園長 二瓶 博子)

- 大山小学校が「他者と関わる力の育成」を重点に置いているので、幼稚園は、その前の段階として、(自分の気持ちを主張するだけでなく)「相手に伝える力」を育てていきたいと思っています。
- また、保護者の方々から家庭において言葉を先取りしてしまうことがあるということをよくお聞きします。具体的には、子どもだけが、または大人だけが一方的に話をしていて、会話になっていないということだそうです。ですので、子どもの話をじっくり聞いてあげるという家庭教育の部分にも力を入れていきたいと思っています。そのためには、保護者の方々にもっと幼稚園に来ていただいて、その中で少人数で教員と保護者が、または保護者同士が語り合ったり、あるいは悩みを聞き合ったりする機会等を通して、個々に寄り添いながら子どもの成長につなげていけるようにしていきたいと思っています。
- 昨年、他県でバスの子どもの置き去り等様々な事件が発生しました。そういったことから、幼稚園に対する不安も大きくなってきている気がします。(本園では、アンケートの結果そういった記述はなかったのですが、言えないだけで多分不安はあるのではないかと思います。)

来年度以降も安心して子どもを預けられるよう経営ビジョンを見直し、「大山幼稚園に子どもを預けてよかった!」と思ってもらえるようにしていきたいと考えています。



オ 玉井幼稚園

(玉井幼稚園副園長 後藤 弥和子)

- 今年も「伝える力」や「伝え合う力」を重視してきたのですが、来年度も引き続き重視していきたいと考えています。子どもたちが、自分の気持ちを素直に伝えられなかったり、うまく話せなかったり、困っていることを言えなかったりする姿が見られました。自分の気持ちをきちんと主張し、友だちとたくさん言葉を交わし合う体験をさせていきたいと考えています。また、それを家庭にも伝えて、幼稚園と家庭が一緒になって進めていければと思っています。
- 玉井小学校では「自主性や主体性を育てていきたい」というお話がありました。幼稚園でも、今後主体的に活動できる力を育んでいけるようにしたいと考えています。そのための環境づくりに努め、遊びの中で自分で考え自ら友だちをつくっていけるよう援助していきたいと思っています。また、体力が無くて「疲れた～」という言葉が出たり、立っていられずすぐに座り込んでしまったりする子の姿も見られるので、体力をつけていけるように工夫したり、自然体験をさらに取り入れていきたいと思っています。



③ それぞれの各校・園に対する質疑応答

(座長) 各校・園から只今発表がございましたが、これに関して皆さんから質問等がございましたらお願いします。時間が残っておりますので、今回の発表以外でも構いませんので…。いかがでしょうか。・・・(特にない様子)・・・

コロナで校長先生方も大変だとは思いますが、また来年度に向けていろいろあると思いますのでよろしくお願いします。これで協議は終了します。皆さん、ありがとうございました。

(渡邊指導主事) ご協議ありがとうございました。

先程、オータム・フェスタのことで事前にもっと話し合う機会があればよかったという話がありました。昨年度は9月に1回CS委員会があったのに今年はなかったということです。事情を聞きましたところ、オータム・フェスタの中身やコロナ対策等について前年度のうちに協議(熟議)でかなり煮詰めてあったので、今年度の9月のCS委員会をカットし別の話し合いのためにまわしたということです。CS委員として取り組みたい・話し合いたいこと等について、次回ご意見をいただけましたらありがたいと思っております。

6 その他

- 第8回CS委員会の予定 1月12日(木) 18時30分～
 - ・ コミュニティ広場最終確認 他

(今野委員) 先程、全体場で今年度のおおたま・オータム・フェスタについてのアンケート集計結果の説明があったと思うのですが、いつもCS委員会で時間を十分にとれなくて、結局課題等出されてもそれが解決されず、解決方法も見つからないまま終わってしまって、結局不完全燃焼のまま次年度を迎えてしまうということが繰り返されているように思います。ですから、今年度は年度内に何とか時間を確保していただいて、課題が提示されたものについて来年度どうしていったらいいかという話し合いをしておく必要があると思います。これからのCS委員会のどこかでもてるようお願いいたします。

(渡邊指導主事) 以前、学力向上についての話し合いも白熱したのですが、時間が不足して踏み込めないこともありました。次回、できるものから取り入れたいと思っています。ご意見ありがとうございました。

7 閉会のことば

(CS委員会副会長 吉田 都)

みなさん、お疲れさまでした。以上をもちまして、第7回おおたま学園CS委員会を終わります。寒くなりましたので、暖かくしてお帰りください。今日はありがとうございました。